

K.S.J.

KAGAWA SHINREN JIHO
KAGAWA SHINRIN KUMIAI RENGOKAI.

香川県森連時報

23

平成27年1月発行(年2回/1月・7月)

謹賀
新年

新年のご挨拶

森は地球の財産です。

JForest



会長新年のご挨拶

香川県森林組合連合会 代表理事会長 木村 薫



新年明けましておめでとうございます。

森林組合の役職員をはじめ組合員の皆様方におかれましては、ご健勝にて新年を迎えられたことと心からお慶び申し上げます。また、平素より本会の業務運営につきまして格段のご支援、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年を振り返りますと、アベノミクス効果に期待が集まると同時に、大幅な金融緩和による円安により、日本経済の再生が押し進められましたが、消費税増税後の反動減により、GDPは2四半期連続でマイナス成長となり、増税が個人消費を押し下げている実態が鮮明となりました。

安倍首相は消費税率を10%に引き上げる時期を、当初予定していた今年10月から1年半先送りすると発表し、さらにアベノミクスの是非を問うとして衆議院を解散し、12月に第47回衆議院議員選挙が行われ、与党は定数の3分の2を超える326議席となり、定数に占める与党の割合は過去最高となりました。

また、ここ数年は全国的に極端な天気が続いており、県内でも梅雨に降雨が少なく、高松の6月の降水量が平年の約3割にとどまるなど一時は渇水も心配されましたが、一転して8月の降水量は平年の約5倍の433ミリと観測史上最多となりました。広島市では局地的な豪雨による土砂災害で多くの犠牲者が出ました。犠牲となられた方々には謹んでお悔やみを申し上げますとともに、県内でも広島市と同様の地質が分布することから、身近にいつ発生してもおかしくない状況にあり、土砂災害に警戒するとともに健全な森林を維持管理することの大切さを痛感しております。

こうした状況のなか、我々森林組合系統においては、平成23年度から「国産材の利用拡大と森林・林業再生運動」を全国的に展開し、提案型集約化施業、低コスト林業の確立、国産材の安定供給体制の強化など、地域林業・経済の活性化に取り組んでいるところであります。

また、県内の里山を中心に急速に拡大した放置竹林対策として、里山の再生を図るため、竹林の整備を進めるとともに、竹林の伐採などの整備から生じる多くの竹林資源を有効に活用するなどの取り組みを、県の支援を受けて今年度より始めたところです。今後は、県内4森林組合が製造・販売を開始する竹パワダーの活用を組合と協力して市町等に働きかけ、全県的に拡大を続ける放置竹林対策として貢献したいと考えております。

さらに、CLT工法と呼ばれる新たな建築技術により4、5階建て木造ビルの普及が注目されるなど、国産材に対する需要がますます高まってくるものと予想され、われわれ林業業界にとって大変心強いものであると感じると同時に、これを好期と捉え積極的に展開するべきであると考えております。

最後になりますが、会員の皆様をはじめ関係機関各位のご支援、ご協力をお願い申し上げますとともに、組合員の皆様方のご健勝、ご多幸をご祈念申し上げまして、年頭のご挨拶といたします。

謹
賀
新
年

香川県森林組合連合会

代表理事会長 木村 薫

副会長理事 三角 正博

専務理事 道久 工

理事 有馬 督治

理事 松浦 可稔

理事 末武 弘道

理事 田中 邦男

代表監事 井上喜代文

監事 眞部 康寛

監事 安藤 憲章



報告 第38回全国育樹祭

10月12日(日)皇太子殿下ご出席のもと、山形県最上郡金山町の山形県遊学の森において「うけつごう緑の大地 羽ばたこうぼくらの未来へ」をテーマとして第38回全国育樹祭が開催された。



式典では皇太子殿下が、第53回全国植樹祭で天皇、皇后両陛下がお手植えされたブナ、ヤマボウシをお手入れされ、アトラクションでは東日本大震災からの復興への思いを込め、青森、岩手、宮城、福島の被災4県の「緑の少年団」に苗木を贈呈し、東北の新たな絆を緑でつないだ。また、山形の雄大な山々や最上川など山形の魅力を紹介する映像プログラムや、山形県出身歌手によるミニコンサートも行われた。香川県下森林組合からは女性職員7名が出席した。式典は曇りどけない晴天に恵まれたが、その後台風19号の影響により綱渡りの帰路ではあったが全員無事帰還した。普段顔を合わず機会の少ない女性職員同士の懇親を深めるよい機会となった。

林業労働安全衛生 研修会開催

11月6日(木)香川東部森林組合、14日(金)香川西部森林組合、25日(火)塩江町森林組合に於いて、林業・木材製造業労働災害防止協会中国・四国地区担当安全管理士 陶山芳伸氏及び同安全技能師範 宮本光芳氏らを講師に迎え、林業労働安全衛生について研修を行った。総勢127名の林業事業者関係者が出席し、チェーンソー従事者については、特殊健康診断も行った。



報告 中央通り 清掃活動

11月15日(土)当会が加盟する「かがわ協同組合連絡協議会」による中央通り清掃活動が実施された。「かがわ協同組合連絡協議会」は協同組合の価値や社会における役割について広く県民に認知されるよう取り組みを行うとともに、県内の協同組合が連携することにより新たな価値を生み出し、協同組合運動を促進させることを目的に平成25年6月に設立されているもので、同協議会の社会貢献活動の一環として各団体から総勢約100名が参加、中央通りの高松築港前から栗林公園前まで清掃活動を行い、当会からも多数の職員が参加した。同協議会ではこのほか使用済み切手を回収し香川県ユニセフ協会に贈呈するなどの社会貢献活動も行っている。



報告 第59回香川県植樹祭

11月16日(日)、宝山湖周辺(三豊市山本町)において、浜田恵造香川県知事をはじめ、五所野尾恭一県議会総務委員長、新田耕造県議会環境建設副委員長らのご列席の下、第59回香川県植樹祭が開催された。香川県植樹祭は緑の大切さ、重要性に対する県民の理解を深め、水源かん養についての意識の高揚を図るため毎年開催されているもので、今年度はソメイヨシノを記念植樹し、ヤマザクラ、クヌギなど合計1000本余りが植樹された。本会も木村会長他多数の職員が参加した。



報告 2014ウッドフェスティバル& さぬ木の暮らしフェア

12月6日(土)、7日(日)の2日間、市内イベント会場「サンメッセ香川」に於いて、浜田恵造香川県知事、宮本欣貞県議会議長、眞鍋宏二香川森林管理事務所長、香川芳文県議会環境建設委員長、五所野尾恭一香川県議会総務委員長らを迎え、「2014ウッドフェスティバル」が開催された。本会も香川県木材需要拡大協議会会員として、ブースを出展し各種イベントを展開した。また、今年度は県内の森林から伐り出された木材が、住宅用材、建具、家具まで裾野を広げた利用拡大と、木材に親しむ機会の創造を目的に香川県が「さぬ木の暮らしフェア」を併催することとなり、本会も同フェア実行委員としてウッドフェスティバルとは別ブースにて参加した。



報告 「緑の雇用」現場技能者育成対策事業 実施について

林業の持続的かつ健全な発展を図るためには、林業への就業希望者の裾野を広げるとともに、人工林資源を有効活用し、利用期を迎えた国産材の安定供給に必要な、間伐や路網の整備等を効率的に行える現場技能者を確保・育成し、その定着を図ることが重要です。

このため、「緑の雇用」現場技能者育成対策事業において、新規就業者に対し、安全かつ効率的な作業に必要な基本的な知識・技術・技能等を習得させるための新規就業者育成対策及び担当する現場の効率的な運営又は現場の統括管理のために必要な知識・技術・技能等の習得を図り、林業就業者のキャリア形成を支援するためのキャリアアップ対策を実施しています。

今年度、香川県内の4事業者においてフォレストワーカー研修(1年目)7名、フォレストワーカー研修(2年目)3名、フォレストワーカー研修(3年目)6名の計16名の研修生が各研修に参加しています。今後、研修生全員が無事故で研修を修了できることを祈っております。

緑の雇用担当



お知らせ Information

平成27年4月1日、森林国営保険が(独)森林総合研究所へ移管されます!

- 森林は、台風、豪雪、山火事などの災害にあう危険があります
- 森林保険は森林所有者自らがこのような突如の災害に備える唯一のセーフティネットであり、重要な公的保険です
- これからも森林保険に加入しましょう!

移管時点で有効な契約は森林総研に自動的に引き継がれます(必要なお手続きはありません)



特集

さぬき空港公園便り



さぬき空港公園が平成27年1月で開園25周年を迎えるに当たり、今年度は記念行事やイベントを数多く開催しました。毎年開催している「真夏の雪遊び」「グラススキー感謝祭」「ポッカール競技会」に加え、25周年記念イベントとして近年競技人口が多くなり人気上昇中の「マラソン大会」や「スタンプラリー」も開催しました。また、25周年記念品として、さぬき空港公園マスコットキャラクター「さぬたん」のオリジナルグッズを作成し、来園者にプレゼントするなど「さぬたん」のPRにも力を入れた結果、1月には「さぬたん」宛てのお便りを多数頂き、大変うれしく思っております。



このほか、10月より一輪車の練習場としてアドベンチャーゾーンの広場が整備されたことから、一輪車の無料貸出を始めたところ、休日に子供さんの練習する姿が見られるようになりました。

今年度は、8月に開催した「真夏の雪遊び」の開催日に、台風が接近したため、あいにくの天気となり参加者が伸び悩みましたが、グラススキー場全体の来園者は3年連続で増加しており、スタッフ一同安堵しております。

また、「グラススキー感謝祭」にも、前年より多くの方に参加していただき、昨年同様グラススキー世界大会優勝経験者の新谷 起世（しんたにゆきよ）プロにグラススキーの体験教室を開講して、初めての方でも気軽に参加できるように企画いたしました。



12月13日には、例年開催している「初心者のためのジョギング講座」を開講しました。今回は翌週にミニマラソン大会を予定していたことから、ミニマラソン大会の事前練習として参加された方もいらっしゃいました。



12月23日に開催した「開園25周年記念健康ミニマラソン大会」では、1kmコースが小学生以下で50名、3kmコースが中学生以上で50名の募集を行いました。多くの方にお申し込み頂き、定員の枠を増やすほど好評でした。開催エリアは、アドベン

チャーゾーンで広い芝生が広がっており、1周約1kmの園路があり、ジョギングやマラソンに最適なエリアとなっています。当日は天候にも恵まれ皆さん良い汗をかきながら、マラソンを楽しんでいました。初めて開催したイベントということもあり、改善すべき点も多くありましたが、多くの方から来年も開催して欲しいとのありがたいご意見を頂き大変うれしく思っています。

地域連携として、10月29日には2回目の鳥人広場の花壇の花苗の植え付けを行いました。植え付けにはボランティアとして竜雲学園かしのき園の皆さんに参加して頂きました。また、平成26年12月に高松空港開港25周年を迎えるに当たり、さぬきこどもの国、高松空港ビル、さぬき空港公園の3施設のコロナによる連携イベントとして、11月15日より30日までの間、高松空港周辺スタンプラリーを開催いたしました。イベント期間が2週間と短かったのですが、100名余りの方に参加して頂きました。



昨年の夏は降雨が十分にあり気温も前年のような猛暑にならなかったため、夏休み期間中は例年より多くの来園者に利用して頂きました。樹木や芝生などもほとんど灌水の必要がなく、来園者の方々や公園の樹木にとっても大変過ごしやすい年だったのではないかと感じております。鳥人広場のキンシバイ植え込みの大規模な補植や、シバザクラの植栽を行いましたので、きちんと定着するか心配しておりましたが、しっかりと根を張って元気に育ってくれました。

芝生広場に関しても、エアレーションや目土を行って、芝生の生育状況の改善に力を入れて、昨年よりもきれいな広場に整備することができました。芝生広場を利用する方々からもよい評価を頂き、グラウンドゴルフ大会などのスポーツ大会も昨年度より多くの申込みがありました。

さぬき空港公園の指定管理も平成27年度で4年目です。一層の公園管理の改善を行い、また、より一層来園者の皆さんに楽しんでいただけるイベントを開催するとともに、安心・安全な施設の提供、運営にスタッフ一同努力してまいりますので、皆様方のご支援ご協力をお願いいたします。

全国森林組合連合会 人権問題啓発推進事業

森林組合系統組織を挙げて取り組もう人権問題

一人権問題の啓発推進に取り組むこととなる基本事項一

- ★人権問題の取組に当たっては、女性、子ども、高齢者、障害者、同和問題、アイヌの人々、外国人、HIV感染者等、刑を終えて出所した人などへの偏見や差別を除去することを内容とする国民行動計画の趣旨を踏まえ、それぞれの分野において自らの問題として積極的な役割の発揮を努めること。
特に、同和問題の早期解決は人権問題の重要な柱であることに留意すること。
- ★職員採用に際し、戸籍謄本等プライバシーに係わる書類の提出を求めることはできません。
- ★人権問題の啓発推進に当たっては、職場内検討会を実施する等により、役職員一人一人が人権意識を高め、他社の価値を尊重する意識・態度の涵養が図られるよう創意工夫すること。

- ★森林組合、県森連等の長は、人権問題啓発推進担当者（総務担当部署において人権問題啓発担当の責任を有する者をいう。）又は人権問題啓発推進担当部署が活動できるような環境整備に努めること。

